

コロラド州立大学 (CSU) USA : コロラド (秋季)

西川敏彦 (京都府京田辺市)

滞在期間 : 2018年8月19日~11月6日

活動場所 : アメリカ合衆国コロラド州立大学 (CSU)

滞在场所 : フォートコリンズ市



1. 授業の様子

ベーケン先生のアレンジにより私は、月曜日~木曜日まで毎日3時間の授業の助手をすることになり、金曜日はテストが多いので休みとなります。休みが1週間のうち3日あるのは、この間に我々旅行者(助手)が、観光などいろいろなことができるように取り計らっていただいているためのようです。

助手のする仕事は、主には提出された宿題を先生に代わって学生たちに返却する、会話の例を先生といっしょに見本をみせる、時折学生たちがノートに書いているのをチェックしに回るなどあります。が、実際にはたくさんあるわけではありません。日によっては、何もしないこともあります。また、二人組みになった時の会話練習の補助、学生たちがこれまで習った文章を基礎に会話を組み立てるための補助、スピーチコンテストの内容チェックなどがあります。

それでも先生方によっては、とても助かりますということをおっしゃいます。それは、50分の授業時間が短すぎて、とても効率よくしないと予定の授業ができないことがあるからです。新居先生、キム先生、コリンズ先生はそれぞれ個性のある授業をされますが、とてもやさしい方ばかりです。

ベーケン先生については2018年12月末で退職されますが、そのあとを継承する若い新居(にい)先生(北海道出身)が隣の州のネブラスカ大学から私と同じ時期の8月に来られて、一生懸命早く慣れようと毎日取り組んでおられます。

ベーケン先生は、WSCの窓口担当であると同時に

日本語学科の責任者でしたが、ここで授業方針を含めて後任には徐先生(中国人ではあるが、日本語については博士号を取得されているすごい先生)がこの学科をリードされることになっています。

私はこの助手だけの役割では満足できなかったのので、各先生方をお願いして個人授業をさせていただけるよう申し出ました。その結果、最後の1カ月は月曜日から金曜日まで全てスケジュールを埋めることができ、とても充実した日々を送ることができました。とは言っても、1日に2~3人ほどです。簡単に言うと、授業についていけなくなった学生たちに声をかけ、本人もやはり助けが必要と思う人だけに限ります。もちろん、このことは事前に先生と相談して実行します。学生の苦手なポイントはいろいろあり、1年生はカタカナが書けない人が多い、漢字の練習授業の復習、本のリーディング、スキット(会話)練習、スピーチコンテストの内容分のチェック、発音チェックなどがあります。宿題の手伝いはできるだけしないようにしますが、どうしてもできない人には答えをすぐに教えず、教科書にある関連する項目に戻って、そこをじっくり教えることで学習者に考えさせて、答えに近づくようにします。

2. 観光

9月初旬に香川大学の高木教授(CSUに留学経験、CSUとの提携関係にあり)が来られていたので、その大学の研修学生たちといっしょにロッキー山脈国立公園へハイキングに行きました。とても綺麗な自然と公園を1日かけてゆっくりと回ることができ、感激しました。



3. 授業以外の活動

盆踊りは時期的には多少外れていますが、学生たちにとっては初めての浴衣を着て踊ります。本来は大学校内で行う予定でしたが、図書館の部屋を借りて日本文化に触れています。



盆踊り 浴衣を着て

それ以外では、隔週の金曜日6時から行う「花金チャット」があり、私には大学内部のことを知る事ができる貴重な時間でした。日本語で話をしなければいけないので、学生たちは汗をたらしながら一生懸命です。私が学生のころ、英会話サークルで苦勞していたのを思い出します。

私の滞在先の隣に「アボガドロの店」というレストラン兼ライブハウスがあり、そこへ一度ライブを見に行ったりしました。

ハロウィンには生涯で初めて変装して授業に出てみたり、最後にはマジックショーをこの CSU に来たばかりの1年生のレン君

と組んで行いました。彼はとても上手で、クローズアップマジックを披露し、私はステージマジックをして喝采を浴びました。このようなことができたのも、いろいろと先生方の協力を得て楽しく過ごすことができ、感謝ばかりです。

4. 滞在地での生活



カフェテリア

昼休みの大学カフェテリアは、非常に混んでいるので毎日弁当を作って行くようにしました。滞在先の部屋には食器類、炊飯器、暖房機、冷蔵庫、洗濯機などがあります。残念ながらテレビはありません。市内にある2件のアジア食品店から日本の食材を購入し、キングスーパーで野菜、パン、果物、米などを購入すれば十分に生活することができます。料理ができない人にはそうはいかないと思いますが、わたしは何とか料理ができたので、かなり節約することができました。

外のレストランにいけば、1日30ドル程度は使うことになり、お酒を飲めばもっとかかることになるでしょう。毎朝の散歩、夜の散歩をすれば1日で1万2千歩~1万5千歩も歩くことができます。あとで気がついたのですが、大学内で運動をする機会がいろいろあります。例えば、柔道を習いに行くと1semester100ドルで済むらしいです。私が大学生の時代、オハイオ州にいたときにある大学で合気道を習ったことがありました。こういったスポーツは大学校内であるので、もっと楽しい生活が送れたかもしれません。スポーツを通じて学生たち、あるいは近所に住む人達とお話する機会があればいいですね。

5. フォートコリンズの気候

8月19日に来たころは、とても涼しくて気持ちがよかったです。日本の暑い、暑い夏から逃げ出せて本当に幸せを感じました。ここは標高1,500mもあるので、ほかの都市に比べると過ごしやすくなっています。10



マジックショーの案内

月に入った頃初雪があり、その次の週もさらに雪があり10~20cmくらいは積もり、街路樹の葉っぱはほとんど落ちてしまって、秋を感じる間もなく冬に入った感じでした。雪は翌日すぐに消えてしまい、それでも朝は摂氏4度、昼は24度という、とても温度差が激しく長袖を着たらよいのか、半袖を着たらよいのかウロウロしました。

11月に入るとさすがに冬を感じがして、それでもすごしやすいですね。最高気温でもせいぜい12℃~15℃程度です。雨はそれほど降ることはなく、傘があればもちろんいいですが、なくてもそれほど困るということはありませんでした。

6. アドバイス

これからこちらに来られる方に、アドバイスです。助手はそれほど日本語を教える能力は必要ないと思っています。しかし、WSCのオリエンテーションに記載されているように、プロの先生方の前では、余計な振る舞いや言動は慎まなければいけません。個人授業については、各先生方も期待しているところがあるので、事前に了解を得た上で行えばよろしいかと思えます。

御夫婦や複数の人数で来られることをお勧めします。この家賃は1人で滞在するには高く感じますが、何人かで分ければ負担が少なくなりますし、なんといっても話し相手ができるので心強いです。また休日が多いので、事前にどのように過ごすかを考えておくべきでしょう。

自分の得意なこと、趣味を活かしてこの大学に何か貢献できればこれほど生きがいを感じるものはありません。文化や習慣の違いを超えて、お互いいいものを取り入れることがあればとてもいいですね。



日本語ランゲージキャンプ